

科目ナンバリング		U-LAS55 10001 SB31							
授業科目名 <英訳>	多文化教養演習：見・聞・知@オーストリア Seminar for Multicultural Studies :Watch, Listen and Learn @Austria				担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 河合 淳子 国際高等教育院 准教授 韓 立友 国際高等教育院 特定准教授 若松 文貴			
	群	キャリア形成科目群		分野(分類)		多文化理解		使用言語	日本語及びドイツ語
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・ 後期集中		曜時限	集中 未定		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>多文化教養演習：見・聞・知@オーストリアは、京都大学が実施する「多文化共学短期留学【派遣】プログラム」と呼ばれる短期留学、事前学習、事後学習から成る授業である。見・聞・知は、「けん・ぶん・ち」と読み、様々な人々と対話し、多文化に深く接する経験を積むこと(=見・聞)、そしてその経験の中で主体的に学んでいくこと(=知)が重視されることを表している。</p> <p>本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるウィーン大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供する語学講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)の語学講座については、ウィーン大学現代語センターにおいて受講者のレベルに適したドイツ語授業を受ける。(2)は現地教員と連携し、オーストリア人学生と、事前に設定されたテーマについて共同発表を行う。(3)については、ウィーンを首都とするオーストリアに関する政治・芸術・音楽・社会制度に関する講義を受けつつ、ウィーン近郊の博物館等の文化施設を視察する機会を提供し、講義と実習が一体化した体験ができる。</p>									
【到達目標】									
<p>短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるウィーンの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とオーストリアの関係ひいてはヨーロッパ諸国についての理解を深める。</p> <p>上記の活動を通じて、日本文化あるいは自分自身の身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</p> <p>現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣に関する多様なアプローチを理解する。</p> <p>現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</p> <p>ドイツ語の基本を習得し、日常的なやりとりができるようになる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1) 3月初旬：事前語学授業(10時間程度)、事前講義(3時間程度)、学生共同セミナー発準備(4時間程度)</p> <p>2) 3月9日(日)～3月23日(日)：短期留学プログラム(於、ウィーン大学)仮スケジュール(日程は2025年6月5日現在案)正式のスケジュールは追ってKULASIS上に公開される募集要項を見てください。</p>									
----- 多文化教養演習：見・聞・知@オーストリア(2)へ続く -----									

多文化教養演習：見・聞・知@オーストリア(2)

6日目 09:00-11:00 講義「戦後ウィーンにおける国際法廷と和解」

7日目 休日

8日目 09:00-11:00 講義「ウィーンの近代的都市化」

13:00-16:00 市内スタディツアー

9日目 09:00-11:00 市内スタディツアー

13:00-15:00 講義「労働・社会法による紛争処理」

10日目 09:00-11:00 市内スタディツアー

13:00-16:00 ウィーン大学文書館視察

11日目 09:00-11:00 講義「ウィーンの音楽史」

13:00-16:00 市内スタディツアー

12日目 10:00-12:00 共同セミナー（前半）

13:00-15:00 共同セミナー（後半）・修了式

13日目 学生交流

14日目 オーストリア発、日本着

3)3月下旬：報告会（1.5時間、於京都大学）

〔履修要件〕

全学共通科目「日本語・日本文化演習」を受講した上での参加を推奨する。ドイツ語未修者も歓迎するが、学習効果を最大化するためには、全学共通科目「ドイツ語」等の関連科目を受講済みであること、あるいは並行受講することを強く推奨する。

〔履修要件〕

全学共通科目「日本語・日本文化演習」を受講した上での参加を推奨する。ドイツ語未修者も歓迎するが、学習効果を最大化するためには、全学共通科目「ドイツ語」等の関連科目を受講済みであること、あるいは並行受講することを強く推奨する。

〔成績評価の方法・観点〕

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）

〔教科書〕

授業中に指示する

〔参考書等〕

（参考書）

授業中に紹介する

〔授業外学修（予習・復習）等〕

現地文化、現地社会に関する文献を読むこと。

現地で受講する講義で指定される文献を読んでおくこと。

〔その他（オフィスアワー等）〕

ウィーン大学側プログラム実施責任者

ウィーン大学労働・社会保障法研究院 教授 Wolfgang MAZAL

〔主要授業科目（学部・学科名）〕

